

様式3

平成30年度愛媛大学プロテオサイエンスセンター共同研究報告書

平成31年2月28日

国立大学法人愛媛大学
プロテオサイエンスセンター長 殿

研究代表者

所属機関： 島根大学

部局・職名： 医学部・病態生化学・教授

氏名： 浦野 健

1. 研究課題：

自己炎症疾患特定の変異インフラマソーム構成タンパク質抗体による病理組織発現の解析

2. 研究組織

| 氏名 | 所属機関・部局 | 職名 | 分担内容 |
|---------------|----------------------|----|-----------------|
| 研究代表者 浦野 健 | 島根大学・医学部・病態生化学 | 教授 | モノクローナル抗体の作製 |
| 研究分担者 萩 朋男 | 名古屋大学・環境医学研究所・発生遺伝分野 | 教授 | 新規の疾患遺伝子変異の機能解明 |

3. 研究成果

別紙のとおり

研究課題名：

自己炎症疾患特異的変異インフラマソーム構成タンパク質抗体による病理組織発現の解析

研究者所属・職・氏名：

島根大学医学部病態生化学・教授・浦野健

研究目的：

インフラマソームは細胞内の病原体認識複合体である。インフラマソームは、細胞内で Nod 様受容体などの病原体認識分子が特定の病原体などを認識した時、ASC というアダプター分子を介してカスパーゼ1と結合し、炎症性サイトカインである IL-1 β の前駆体を切断して活性化する。ところが、自己炎症疾患では、病原体認識分子に変異がおこるなどの原因によって恒常的にインフラマソームが活性化しやすい状況にある。そこで、変異インフラマソームがどのような疾患でどのような組織に発現しているかを解析することは、疾患の病態解明や診断に重要である。本研究では、疾患特異的変異に対応する抗体などによる病理組織免疫染色を行うことを目的とする。

研究内容

遺伝子変異を基に既に開発済みの抗体や新規の抗体を開発し、病理組織での免疫組織学的染色を行う。また、新規の遺伝子変異の解明のために名古屋大学環境医学研究所 発生・遺伝分野の荻朋男教授にも参画頂く。

研究成果

新規の特異性の高い抗サイトカイン抗体の免疫染色での応用を検討した。その結果、IL-18 特異的な抗体を選定できた。今後、病理組織での免疫染色を行なっていく。

